

## 児童生徒の「主体的な学び」を促す授業実践

### 1 基本情報

- ◇各教科等 作業学習（紙漉き）
- ◇学部・学年 中学部 第1学年1名，第2学年2名，第3学年3名（計6名）
- ◇単元名 紙製品の製作
- ◇単元の目標
  - ・働くことの喜びを知り，進んで仕事に参加することができる。
  - ・物を作ることの喜びを味わい，仕事への自信を持つことができる。
  - ・分担された仕事を最後までやり遂げることができる。
  - ・他の人と協力して作業する態度を身に付ける。
- ◇付けたい力 自分の仕事を落ち着いて最後までやり遂げる。
- ◇本時の目標
  - ・自分の分担された仕事を最後までやり遂げることができる。
  - ・落ち着いて作業することができる。
- ◇生徒の実態 知的障害と自閉症もしくはその傾向を有する単一障害学級に在籍している生徒でグループを編成。決まったパターンの学習が得意であり，活動の見通しが立てば集中して学習に取り組むことができる。6名のうち，1年生1名と2年生の1名以外は昨年度紙漉きを経験している。指導者が主に担当するBは作業内容を説明すると見通しを持って作業に取り組めるが，集中できなくなると持ち場を離れてしまうことがある。

### 2 期待する児童生徒の姿

- ・自分の仕事を，落ち着いて，終了時間までやり遂げる。

### 3 指導者が捉えた児童生徒の「主体的な学び」

- ・前半のトレイ作りでは手順がわかり，作業できていた。トレイが6枚ずつ置ける乾燥板を使うので，自分が作る枚数を6の倍数分取るようにした。また，それがなくなれば終わりなので，終わりがわかりやすく，見通しをもって作業できた。
- ・トレイの型を取るために抑える作業では丁寧さに欠け，言葉掛け等の支援が必要だった。
- ・後半の牛乳パックを切る作業では，終了時間まで作業するのを色が減るタイマーで示したが，見通しが持ちにくく，離席してしまった。時間内にできるの枚数を用意して，それがなくなったら終わりという方が見通しが持ちやすい。ただ，時間内に終わってしまう場合もあるので，多めに用意する。また，多さに意欲をなくしてしまうこともあるので，枚数を加減しながら落ち着いて作業できるように促す支援が必要である。